

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 10 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20330117

研究課題名 (和文) 移住者による民族関係の再形成に関する比較社会学的研究
-韓国系移住者を事例に-研究課題名 (英文) Comparative Sociological Study on Formation Process of
Ethnic Relation by Immigrant -Case Study of Korean Immigrant-

研究代表者

魯 ゼウオン (NOH JAEWON)

天理大学・国際学部・准教授

研究者番号：30303572

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：民族関係、コリアンタウン、中国朝鮮族、移民集団、華人社会、共生関係

1. 研究計画の概要

(1) 研究の目的

この研究は、経緯として韓国系移住者のエスニック・ビジネス起業研究から派生したものであり、在米コリアンと在日コリアンの比較する視点から、移民が定着するために戦略的にどのような民族関係を求めているのかを移住者個人のニーズを中心にみていく必要がある。

本研究は、以上の問題意識にもとづいて日本の地方都市と米国のニューヨーク市のコリアンタウンに焦点を当て、とくに中国朝鮮族の流入に伴い、在日コリアンと在米コリアンの民族関係がどのように再編していくのかを実証的に解明することを目的としている。移民先進国である米国の知見を用いて、21 世紀の日本社会の多民族共生社会が可能な条件を示すことを目指している。

(2) 研究の課題

そのため以下のように研究課題を設定する。

①民族関係の実態を在米コリアンに関わる「Middleman Theory」という民族関係の視点から分析する。それを通じて、受け入れ社会別で多様に展開する韓国系移住者の民族関係の変容とその社会的機能を分析する。②ニューヨーク市のコリアンタウンに定着する中国朝鮮族が在米コリアンと華人社会とどのような民族関係を形成するのかを明らかにする。③日本の地方都市として名古屋市や奈良県を取り上げて、在日コリアンと中国朝鮮族とニューカマーの韓国人の3つのエスニック集団の共生関係を明らかにする。④米国と日本と韓国に展開する移住者のネットワークをトランスナショナルなネットワークの関連で、国境を越えるネットワー

クの意味を明らかにする。

(3) 研究の内容

在日コリアンと在米コリアンの形成と展開過程を把握しつつ、日本・米国・韓国において以下の内容の調査研究を行う。

①第1年次は予備調査を通じて、米国のコリアンタウンについての各種データを収集すると共に、聞き取り調査を実施する。②第2年次は米国のニューヨーク市のコリアンタウンの移民組織の現況と特質を移民歴史やアジア系移民の共生関係の関連で明らかにする。③第3年次は、米国のニューヨーク市の中国朝鮮族とコリアンとの民族関係の再編を重視した現地調査を実施する。④第4年次は最終年次であり、補足調査などを実施して本研究の完成度を高める。

2. 研究の進捗状況

在日コリアンと在米コリアンの特質をより鮮明に示すために、各調査地別の民族関係の実態を鮮明してきた。

(1) 米国のニューヨーク市のコリアンタウンに展開されるコリアンコミュニティと華人社会の民族間形成において、中国朝鮮族を媒介的な存在として位置づけた。世界都市ニューヨークの地域社会において、アジア系移民同士の民族関係が常に流動的に再編されていることが明らかになった。

(2) 日本の名古屋市のコリアンタウンを多様な民族関係が形成される場として位置づけた。ここでは、在日コリアンとは別に、中国朝鮮族とニューカマーの韓国人が宗教組織を中心に新たな民族関係を形成していることが明らかになった。同時に、日本の地方である奈良県においては、夜間中学という場

において在日コリアンとニューカマーの韓国人が民族関係を形成していることが明らかになった。

(3) 韓国の地方都市を移住労働者が定着する場として位置づけて、韓国人と中国朝鮮族の民族関係が結婚などを通じて家族関係として展開されていることが明らかになった。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

①当初の調査計画どおりにほぼ毎年度研究を実施してきたからである。また、調査の結果を日本の学会で発表してきた。②米国や韓国の社会学者との意見交換や調査地に関する情報交換を通じて研究ネットワークの充実に進めてきた。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 研究の完成度を高めるため、民族関係の再編という視点から、過去3年間の研究を調査地ごとに見直す。とりわけ、今日のグローバル化における移住者の特質を受け入れ社会に即して解明する。同時に、以上の研究の深化にもとづいて、民族関係の再編の全体像を総括する理論的な枠組みを構築することにつとめる。

(2) 以上の研究の推進をより十全なるものとするために、最終年次には調査地の社会学者に調査の成果を説明し、最終評価を受ける。

(3) さらに研究成果の出版に向けた準備を積極的に進める。最終年次は研究期間全体を総括する報告書をまとめる。そして、この報告書にもとづいて、来年度に科学研究費の出版助成を申請し、正式な出版を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① 魯ゼウオン 「ニューヨークにおけるコリアンタウンの形成と変容」『アゴラ (天理大学地域文化研究センター紀要)』No.7、53-72頁 (2010)

[学会発表] (計2件)

① 魯ゼウオン 「ニューヨーク市におけるコリアンタウンの形成と変容」第61回朝鮮学会大会、天理大学、2010年10月2日

② 魯ゼウオン 「ニューヨークの韓人社会における民族関係の変容」第27回日本都市社会学会、県立広島大学広島キャンパス、2009年9月12日